

急性期病院に入院した認知症高齢者の在宅復帰状況

当院の研究責任者 (所属)	佐藤 享子 (国立病院機構 栃木医療センター 看護部 1階病棟 副看護師長・認知症看護認定看護師)
他の研究機関および 各施設の研究責任者	佐藤 享子 (国立病院機構 栃木医療センター 看護部 1階病棟 副看護師長・認知症看護認定看護師)
本研究の目的	急性期病院の認知症状を有する高齢入院患者のうち、在宅に退院した生活が継続できている(認知症高齢者日常生活自立度Ⅲa以上の)認知症高齢者に対する看護力を明らかにする。
調査データ 該当期間	2019年4月から2020年3月までの12ヶ月の期間、情報を調査対象とする
研究の方法 (使用する試料等)	<p>●対象となる患者さま 上記期間内に栃木医療センター(当院)の70歳以上の退院患者1349名のうち、下記①②の条件を満たすものを対象とする。</p> <p>① 認知症の診断を受けた患者、または発現した行動心理症状(BPSD)の症状に投薬がなされた患者 (入院前から認知症の診断を受けている患者、入院後認知症の診断がついた患者)</p> <p>② 認知症高齢者日常生活自立度判定Ⅲa以上と判断された患者</p> <p>※認知症高齢者日常生活自立度判定について 認知症高齢者日常生活自立度とは、認知症の高齢者にかかる介護の度合いを分類したものである。 認知症高齢者日常生活自立度Ⅲa以上は認知症ケア加算算定対象となっている。</p> <p>Ⅲa以上の状態は、日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難が見られ、介護を必要とする。着替え、食事、排便、排尿が上手にできない、時間がかかる。やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声をあげる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等みられる。Ⅳは常に介護を必要とする。Ⅴは著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする状態である。</p> <p>●利用する情報 電子カルテに記載のある診療録</p> <p>1) データ収集項目</p> <p>①対象の入院状況(緊急入院の有無、救急搬送の有無) ②入院となった診療科 ③退院先(自宅または終の棲家であるサ高住、認知症高齢者のグループホーム、特別養護老人ホーム、有料老人ホームなど) ④退院時のADLの程度 ⑤入退院時の認知症高齢者日常生活自立度 ⑥退院時の年齢 ⑦在院日数 ⑧入退院時の要介護度 ⑨入退院時の介護保険の申請状況 ⑩キーパーソン</p>

<p>試料/情報の 他の研究機関への提供</p>	<p>研究責任者へ提供</p>
<p>個人情報の取り 扱い</p>	<p>利用する情報から氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は利用しません。</p>
<p>本研究の資金源 (利益相反)</p>	<p>本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。</p>
<p>お問い合わせ先</p>	<p>本研究への診療情報提供を希望されない方は、下記までご連絡ください。 電話：028-622-5841(代)内線 2150 担当者：佐藤 享子 (国立病院機構 栃木医療センター看護部 1階病棟)</p>
<p>備考</p>	